

企業現場見学会 2019 募集要項

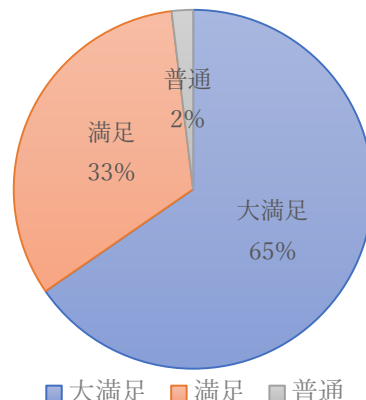
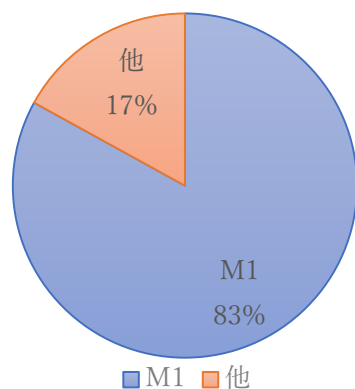
日本化学会 産学交流委員会

- ・ 開催趣旨 : 日本を支える重要な産業である化学産業の現場（工場や研究所）の見学を通じて、企業は自社の特徴や魅力、研究活動の様子を学生に直接、単なるイメージではなくリアルに五感で印象づけることが出来ます。また、化学分野の研究者、技術者を志す学生会員にとって、進学や就職を考える上での重要な判断材料となることは間違いありません。そこで企業と学生の双方向におけるコミュニケーションの場として『企業現場見学会』を実施いたします。本企画の実施により、企業と学生との交流はもちろんのこと、参加した学生会員同士の交流の促進につながることを期待します。
- ・ 開催時期 : 9月1日～30日のうち1日をご指定ください
- ・ 募集対象企業 : 本会法人会員であり、見学受入協力が可能な企業
- ・ 実施内容 : 学生会員を対象とした半日程度の工場や研究所の見学会の実施
 - ※ 見学会の内容および最小・最大催行人数は各社で自由に設定頂けます
(見学に限らず研究所長による講演や若手社員との座談会・意見交換会、懇親会など)
 - ※ 参加する学生会員は現地集合、現地解散を原則とします
 - ※ 当日の運営や開催報告記事用の写真撮影などは各社でお願いします
 - ※ 本会職員は当日現場には赴きません
- ・ 参加対象者 : 本会学生会員に限る
- ・ 申込方法 : フォームよりお申込ください <https://event.csj.jp/form/view.php?id=300441>
- ・ 申込〆切 : 5月16日
- ・ 事務手続手数料 : 108,000円(税込み)
 - ※ 最少催行人数に達しない場合やイベントをキャンセルされた場合でも、お申し込み後の事務手続料は返金できかねますのでご了承下さい
- ・ 事務手続手数料に含まれるもの :
 1. 周知・広報
 - i. 本会会員宛のメール配信(化学会定期便)にて配信(6月～8月の各月2回)
 - ii. 本会会誌(化学と工業7月号)への情報掲載
 - iii. 本会ウェブサイトへの情報掲載
 2. 参加登録管理
 - i. 参加者受付サイトの作成、管理
 - ii. 参加登録受付
 - iii. 参加者名簿の作成
 - iv. 参加者への各種案内
 3. 報告
 - i. 本会ウェブサイトの新着情報への開催報告記事の掲載
 - ii. 参加者向けのアンケートの実施と結果の取り纏め
 - iii. 本会会誌(化学と工業1月号)への開催報告記事の掲載
- ・ 問い合わせ先 : 日本化学会企画部 河瀬

E-mail:sangaku@chemistry.or.jp、TEL:03-3292-6163

参考：昨年度アンケートより抜粋

◇参加者の学年内訳：80%以上が M1 の学生 ◇参加者の満足度：98%が満足と実感



◇参加者の所属一覧

[国公立] 東京大学、名古屋工業大学、大阪大学、横浜国立大学、京都大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、筑波大学、富山大学、岐阜大学、東京工業大学、信州大学、千葉大学、北海道大学、埼玉大学、神戸大学、大阪府立大学

[私立] 関西大学、早稲田大学、東京理科大学、立命館大学、同志社大学、慶應義塾大学、中央大学、関西学院大学、法政大学、東邦大学、日本大学、神奈川工科大学

◇参加者の声

「他では見ることが出来ない、他の企業見学会とは違う」と感じた点はどこですか？

- ・他の説明会とは異なり、座談会にて少人数で社員さんとお話しさせて頂いたため、質問がしやすく企業への理解がより深まった。社員の方の詳しい解説を聞きながら、プロセスを見学できる点が特に素晴らしいと思いました。
- ・会社で行っている研究内容をスライドで発表するだけの企業説明会も存在する一方で、実際に研究所に足を運ぶことによって、様々な製造装置や分析機器を見学させてもらったのが他とは違う点として挙げられるかと思います。また、一つ一つの機器に対して社員の方が懇切丁寧に説明して下さったのも非常にありがたかったです。
- ・製品を手にとってみることや製品の良さについて実演していただくことでその製品の強みが理解できたこと、またそのことから常に変化しうる次世代に向けて技術で引っ張っていく企業の姿勢が感じられたことは魅力的でした。
- ・短い時間ながら、施設をほとんど見学する事ができたこと。少人数だったため、会社のことをより深く知れたこと。
- ・研究所見学で、滅多に見ることができない研究の現場を体感できた点です。社員の方が仕事をする姿を生で見られるとても貴重な体験でした。
- ・工場では使用するエネルギーの80%が自家発電により賄っていることを知り、設備投資できる企業規模の大きさを実感した。また、製造プロセスにおいてエネルギーが無駄なく効率的に使われるよう設計されているのを知り、製品だけでなく製造過程へのこだわりまで感じられた。